

佐賀県教育センター  
論文表記上の参考資料

(R8. 3 改訂)

# 1 表記上の注意

## (1) 漢字，仮名等の表記

漢字，仮名等の表記は次による。

- ア 漢字 常用漢字表（平成 22 年内閣告示第 2 号）の本表及び付表
- イ 仮名遣い 現代仮名遣い（昭和 61 年内閣告示第 1 号）
- ウ 送り仮名 送り仮名の付け方（昭和 48 年内閣告示第 2 号，昭和 56 年内閣告示第 3 号）
- エ ローマ字 ローマ字のつづり方（昭和 29 年内閣告示第 1 号）
- オ 外来語 外来語の表記（平成 3 年内閣告示第 2 号）

また、「学習指導要領」，各教科・領域の「学習指導要領解説」の記述に準ずる。

※ 留意する表記や用語（小・中・高等学校の『学習指導要領』『学習指導要領解説』等から）

児童のよい点	互いのよさ	児童生徒	よりよく	デジタル化	道徳科	コンピュータ
アイデア（小：図画工作，中：美術，高：芸術，情報など）				アイディア（中：英語，高：英語など）		
コミュニケーション	ハードウェア	レクリエーション		ボランティア		

## (2) 「・」とする表記

小・中・高等学校の『学習指導要領解説総則編』に見られる表記を参考にする。

主体的・対話的	見方・考え方	資質・能力	体育・健康	体系的・継続的
興味・関心	横断的・総合的	合科的・関連的	基礎(的)・基本(的)	健康・安全
改善・克服	家族・家庭	基礎的・基本的	国家・社会	編成・実施
評価・改善	産業・経済	能力・適性	役割・立場	教材・教具
問題発見・解決	把握・分析	知・徳・体	アクティブ・ラーニング	
教育内容・方法	連携・協働	実践的・体験的	※観察・実験（観察，実験）	
技術・技能	改善・充実	組織的・計画的	※知識・技能（知識及び技能）	

\* 上記の表現については，原則である。したがって，前後の文章によって判断する。

## (3) 句読点の使用

- ・読点は「，」または「、」を使用し，一つの論文中で統一する。（引用文内の読点もどちらかに統一する。）
- ・特に，接続詞のあとには，読点を打つ。【例】「また～」→「また，～」 「そして～」→「そして，～」
- ・長い文については，句点を打ち，幾つかの文に分ける。
- ・文末に括弧がある場合，それが部分的な注釈であれば，閉じた括弧の後に句点を打つ。  
例) 当事業は一時休止を決定した。ただし，年内にも再開を予定している（日程は未定である）。  
また，それが文章全体の注釈であれば，最後の文と括弧の間に句点を打つ。  
例) 当事業は一時休止を決定した。ただし，年内にも再開を予定している。（別紙として，決定に至った経緯に関する資料を付した。）

## (4) 数詞の扱い

- ・基本的に，序数として使う場合は算用数字とし，慣用的な語は漢数字とするが，同一論文中で表記が統一されていればよい。（以下は，学習指導要領内で使用されている表記例）

1 学年	1 単位時間	1 年間	一人一人	役割の一つ	一つ一つの動き	二つ目は
3 点目	次の 2 点に	2 語	第三に	二つの課題	二点説明する	一斉に
2 学年間	2 文	第 2 表	二種類	三つの柱	二人三脚	三者が

- ・ 1 桁の数字は全角，2 桁以上の数字は半角で表記する（3 人，25 分，100 メートル）。

(5) その他

「話し言葉」調の記述ではなく、「書き言葉」として記述する。(ただし、児童生徒の発言やワークシートの記述などはこの限りでない。)

## 2 研究論文のまとめ方と記入例

### (1) 文書作成時の設定

ア 研究計画書，研究紀要などの文書は，特に指定がない限り，次のように様式設定をする。

用紙サイズ	: A 4判，縦用紙，横書き
1 ページ字数	: 46 字×42 行
フォント	: 項目と本文で使い分ける。 <例 1> 項目：ゴシック体，本文：明朝体 <例 2> 項目：UDデジタル教科書体N-B，本文：UDデジタル教科書体N-R 英単語等には century 等を用いてもよい。
フォントサイズ	: 10.5 ポイント
余白	: 上余白 20mm，下余白 25mm，左右余白 18mm
表記	: この「佐賀県教育センター論文表記上の参考資料」に準ずる ※ 表内の行数や行間は，特に指定はない。 ※ 図や表の中の文字，図表のタイトルの文字については，8 ポイント以上とする。

### イ 文字詰めめの初期設定

・ **ワードの場合**

ファイル→オプション→文字体裁を開き，「カーニング」の「半角英字と区切り文字」及び「文字間隔の調整」の「句読点のみを詰める」にチェックを入れる。

・ **一太郎の場合**

ファイル→文書スタイル→スタイル→体裁タグより，「和文体裁」の中の「禁則処理」，「追い込み」，「括弧類の重なり処理」にチェックを入れる。

### (2) 項目，タイトル，書き出しなど

項目の記号は，必要に応じて下記の使用順序で用いる。

大項目	→	次項目	→	(順次下位項目が必要な場合→)	
1 (全角)		(1) (半角)		ア (全角)	(ア) (半角)
2		(2)		イ	(イ)
3		(3)		ウ	(ウ)
				a (全角)	(a) (半角)
				b	(b)
				c	(c)

[文章の中で項目分けが必要な場合は，①，②，③，または i，ii，iii等を使用する。]

項目 1 までは項目用のフォントを用いる (原則)

1	研	究	の	～					
(1)	研	究	の	～					
	ア	研	究	の	～				
	(ア)	研	究	の	～				
		a	研	究	の	～			
		(a)	研	究	の	～			
(a)									

\* 番号等の付け方は，左の例に準ずる。

\* そのページの項目が (a) などの下位項目しかないときは，左詰にする場合もある。

### (3) 図や表の挿入

図や表などの掲載については、下記のとおりとする。また、タイトル名は項目用のフォントを用いる。  
図・表などが一つしかない場合も、**図 1**、**表 1**などとする。

図・資料の場合……図・資料の下に（センタリング）	表の場合……表の上に（センタリング）
--------------------------	--------------------

  

(図) 絵，地図，グラフ 構造図など	(資料) 写真，児童の感想 ワークシートなど	<b>表 1 ■タイトル</b> (表) 記録や調査結果を 示す表など
--------------------------	------------------------------	--

図 1 ■タイトル      資料 1 ■○○○○○  
○○○○○  
※タイトルが長い場合

※ センタリングし，全角 1 文字分空ける。(■は全角スペースを表す)

本文中で図・表などについて言及するときの表記

◇ 本文中では，ゴシック表記。

<例> 実験の様子を**表 5**に示した。  
・・・を作成し（**資料 4**），使用した。  
「・・・」（**図 3**）という質問について，

◇ 文末に示す場合。

<例> 「・・・」と記述している（**資料 6**）。

◇ 図・表などが別のページにある場合。

<例> **前頁資料 4**を基に，・・・  
学習過程を**次ページ表 1**に示す。  
カード（p.17 **資料 8**）を活用し，

◇ 図・表などの一部分を示したい場合。

<例> **資料 5**の枠囲み部のように  
**表 1**の下線部から，・・・  
**前ページ表 1**の 1， 2のように

### (4) 引用の仕方

#### ア 引用の示し方

文章中の該当箇所の右肩に<sup>(1)</sup>，<sup>(2)</sup>（上付 1/4 倍）の通し番号で示す。※<sup>(1)</sup> 括弧，数字全て半角

<例> ……であるが，梶田叡一は，「○○○……」<sup>(1)</sup>と述べている。

巻末の引用文献欄には，右肩に示した番号を最初に示すことで，引用した書籍や紀要と対応させる。

#### イ 引用者名の表記

論文中で他の論者の文を引用する場合，初出時にはフルネームで記載。二度目からは姓だけでよい。  
ただし，同姓の者が複数いる場合は二度目以降もフルネームで記載する。

#### ウ 引用文には，「 」の引用記号を用いる。

前後の文を省略する場合は，「…」（3点リーダー）を2文字分入れる。→「……」

<例> 「○○○……」（後略の場合）「……○○○」（前略の場合）

引用文中に「 」の記述がある場合は、『 』に置き換える。(「○○『○○』○○」)  
引用は原文と一字一句違わないようにする。原文の誤植も「ママ」と示し、そのまま記入する。

<例> 「……<sup>ママ</sup>○○……」(○○は誤植の部分を表す)

エ 長い引用の場合は別の段落にし、左右を1文字分空けておく。

オ 間接引用はなるべく行わないようにする。原文がいろいろと解釈される場合もあるので、直接引用の方がよい。

#### (5) 引用及び参考文献の書き表し方

ア 著者名、書籍名、発行年、出版社名(引用の場合はページ数も)の順で書く。

イ 引用のページは、そのページのみ場合は p. 7、複数ページの場合は pp. 14-17 のように書く。p と - (ハイフン)、. (ピリオド) は半角とする。記述例(1)参照。

ウ 編集した人、著作し編集した人についても、「○○編」「○○編著」と正確に示す。

エ 書籍名には『 』を付ける。

論文の場合は「 」, その論文集(雑誌名)は『 』と併記する。記述例(2)参照。

なお、答申は、『 』, 教育センターのコンテンツも『 』を使用する。

オ 発行年は著作物に書かれている表記を用いる。(西暦なら西暦、元号なら元号)

西暦の場合は、半角数字とする。

元号の場合は、令和9年までは全角数字、10年以降は半角数字とする。

#### カ 引用文献の記述例

《引用文献》

(1) ■■ 山田■一郎編著 『総合学習のあり方』 ■■1997年■教育書店■pp. 142-144 (または、p. 142)

(2) ■■ 佐賀■太郎 『総合的な学習の時間における協働学習の取り入れ方に関する研究』 『川上大学大学院教育実践論文集』 ■■2017年10月号

(3) ■■ 佐賀県教育センター ■■ 『平成25・26年度「プロジェクト研究」小・中学校社会科』 ■■平成26年3月  
[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h26/01\\_syakai/toppage.htm](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h26/01_syakai/toppage.htm)

(4) (5) ■■大和■春子 『どうつくる、探究活動』 ■■2019年■佐賀書店■p. 8, p. 25

《参考文献》

- ・鈴木■健一編著 『総合学習の理論』 ■■2011年■大和書房
- ・浦川■仁一郎・森山■義太郎 『国語科の授業づくりを探る』 2013年 北館出版社
- ・松尾■信 『問題解決の過程において数学的な思考力を育む指導方法を探る』 ■■2017年■教育図書社
- ・佐賀県教育センター 『理科力向上サポート事業』  
<http://www.saga-ed.jp/chouken/rikasaport/risapotop.html>

1行で書けない場合は、2行にまたがってよい。

引用、参考それぞれの頭をそろえる。

書名の開始位置をそろえる。書名でなければ2行目は、『の真下から開始する。』

参考にしたWeb資料も、参考文献として記す。URLは、頭をそろえる。

### 3 その他、表記上の注意

- ・項目を表す番号，アルファベットの後は**1マス空ける**。
- ・記号(○,・など)の後はスペースを空けなくてもよい。空けない場合は，2行目以降の文頭は1行目の文頭にそろえる。
- ・半角英数字は，century や Times New Roman に自動変換する場合があるので注意する。  
悪い例…PISA 学力調査，2017年，ALT，45分授業など
- ・英字は次のような表記にする。(原則)  
英文や単語は，半角で，語頭・文頭だけ大文字を使う。

<例> Web, “What’s this?”

単語の頭文字を組み合わせて意味を成すものは，全角で，全て大文字を使う。

<例> ALT, TT, ICT

- ・英文を入れる場合は，カギ括弧(「○○」)ではなく，quotation mark (“○○”) でくくる。
- ・動詞として漢字表記をするものも，補助用言として使う場合は仮名表記とする。

<例> [お菓子を頂く・発表していただく] [資料を下さい・お座りください]  
[資料が欲しい・発表してほしい]

- ・網掛けは，濃淡に注意する。
- ・「 」に文章が続く場合は，句点(。)を付けない。ただし，「 」内に複数の文章がある場合は，最後の文より前の文には句点を付ける。

<例>

……本時の課題を次のように設定した。「じしゃくにつくものつかないものを調べよう。」

(「 」の後ろに文章が続かないので，句点を付ける。)

……事前のアンケートの中でA児は，「どう接していいか分からない」と答えていた。

(「 」の後ろに文章が続くので，句点を付けない。)

……B児は，「ビーカーの下の方は冷たいよ。水は上の方から温まっていきたいだ」とつぶやいていた。

(「 」に複数の文章があるときは，最後の文だけ句点を付けない。)

- ・文中(箇条書きを含む)の( )，「」は全角とする。  
ただし，項目を表す場合や引用の場合は半角である。例：(1)
- ・%，℃は全角，mm，cm，m，mL，dL，L，g，kgは半角。

4 研究論文の表記について

表中の、△は表外漢字・常用漢字外。〔 〕は望ましい語句、\*は許容を示しています。

見出し	表記	備考	あと	あと (副詞) あと (接続詞)	あと三分 あと、～ ～したあと
【あ】					
あいさつ	挨拶				
あいだ	間柄			跡	苦心の跡, 跡目
あいにく	あいにく	△生憎		痕	傷痕
あいまい	曖昧		あまり	余り	余りが出る 余りにも
あいまって	あいまって	△相俟って			
あえて	あえて	あえて～する	あらかじめ	あらかじめ	△予め
あきらめる	諦める		あらためて	改めて	改めて～する
あくる	明くる	明くる日	あらゆる	あらゆる	△所有
あげく	挙げ句	～した挙げ句	あらわす	表す	言葉に表す
あける	明ける	夜が明ける		現す	姿を現す
	空ける	時間を空ける		著す	書物を著す
	開ける	窓を開ける	あらわれる	表れる	喜びの現れ
あげる	上げる	品物を上げる		現れる	太陽が現れる
		物価が上がる	ありか	在りか	△在り処, 在処
	揚げる	船荷を揚げる	ありかた	在り方	
		歓声が揚がる	ありがたい	有り難い	有り難み
	挙げる	一例を挙げると	ありがとう	ありがとう	
	～(て)あげる	国を挙げて	ある (連体詞)	ある	ある日
		図書を貸してあげる	ある (動詞)	ある	そこに問題がある
あこがれる	憧れる			有る	財源が有る
あたかも	あたかも	△恰も			有り・無し
あたり	辺り	辺り一面		在る	本社は東京に在る
あたりまえ	当たり前			～(て)ある	書いてある
あたる	当たる	予報が当たる	あるいは	あるいは	△或いは
		～に当たり,	あわせて (副詞)	併せて	併せてお願いする
		～に当たって,	あわせて (接続詞)	あわせて	あわせて, ～
あっせん	あっせん	△斡旋 〔周旋, 世話〕	【い】		
あつらえる	あつらえる	△誂える	いう	言う	彼の言うこと
あて	宛	宛名, 宛先 各学校宛て		～いう	～という場合
あてはまる	当てはまる			いう	こういうこと
あてる	当てる	日光に当てる	いえども	いえども	〔～でも, ～であつても〕
	充てる	保安要員に充てる	いえる	言える	～と言える
あと	後	後で～する	いかす	生かす	△活かす〔活用する〕
			いきおい	勢い	勢いが悪い
			いけい	畏敬	
			いく	行く	学校へ行く
				…(て)いく	実施していく



見出し	表記	備考			
		おおよそ2か月	かじょうがき	箇条書	
おかげ	おかげ	くらい △お陰 おかげで～	かい	かい	△甲斐 ～したかいがあつて
おこない	行い	△行ない	がいして	概して	概して良好である
おこなう	行う	調査を行う △行なう	かいしょ かいよう かえって	楷書 潰瘍 かえって	潰す △却って かえって不便になる
おくびょう	臆病	臆する			
おさめる	収める 納める	目録に収める 注文の品を納める	かえりみる	顧みる	過去を顧みる
	治める	領地を治める		省みる	自らを省みる
	修める	学を修める	かえる	変える	観点を変える
おそらく	恐らく			換える	名義を書き換える
おそれ	おそれ	～のおそれがある		替える	振り替える
おそれ	畏れ	畏れ多い言葉		代える	書面をもって挨拶に代える
おって (副詞)	追って				
おとさた	音沙汰	[便り, 音信]	かかる	かかる	△斯る [このような]
おとな	大人				
おのおの	各, 各々			かかる	△罹る
おのずから	おのずから	△自ら おのずから理解できる		係る	病気にかかる ～に係ること △関る
おびたしい	おびたしい	△夥しい	かかわり	関わり	△～にも関わらず
おぼしめし	おぼしめし	△思召し			
おぼつかない	おぼつかない	△覚束ない	かかわる	関わる	
おもしろい	面白い		かく	描く	国境線を描く
おもに	主に		かぐ	嗅ぐ	嗅覚
おもむき	趣		がけ	崖	断崖, 崖下
おもむく	赴く	任地に赴く	かける	掛ける	迷惑を掛ける
おもわく	思わく	△思惑			時間を掛ける
およそ	およそ	△凡そ			費用を掛ける
および (接続詞)	及び	A及びB		懸ける	優勝を懸ける 賞金を懸ける
およぼす	及ぼす			架ける	橋を架ける 電線を架ける
おり	折	その折			
おりから	折から	△折柄	かこく	苛酷	*過酷
おる	おる	△居る ～しております	かする	課する	税を課する
おわり	終わり	△了	かたがた	科する	刑を科する
【か】			かたづけ	かたがた	お礼かたがた
か	か	3か月(1, 2か月)	かたづける	片付け	
	箇	二, 三箇所		片付ける	

見出し	表記	備考			
かたわら	傍ら	歩道の傍ら	きはく	希薄	△稀薄
がち (接尾語)	～がち	～しがち ～ありがち △且つ	きふ	寄附	
かつ	かつ		きまり	きまり	きまりに関する 決まり方
かっきてき	画期的		きゅうかく	嗅覚	
かっこ	括弧		きゅうきよ	急きよ	△急遽
かつて	かつて	△嘗て	きゅうし	臼齒	
かって	勝手	勝手が違う 勝手次第	きる	切る	世相を斬る
かつとう	葛藤		きる	斬る	進退窮まる
かっぱつ	活発		きわまる	窮まる	窮まりなき宇宙
かな	仮名	片仮名, 平仮名 仮名遣い		極まる	不都合極まる言 動
かなう	かなう	△叶う, 適う	きわめて	極めて	極めて大きい
かなた	かなた	△彼方	きわめる	極める	見極める
かならず	必ず		きんさ	究める	学を究める
かまう	構う	構わない 費用に構わず お構いなく	【く】	僅差	
	～(て)もかま わない	外出してもかま わない	ください	下さい ください	資料を下さい 御指導ください 御覧ください
がまん	我慢		くだす	～(て)くださ い	問題点を話して ください
かもしれない	～かもしれない	△かも知れない 間違いかもしれ ない	くみあわせる	下す	判決を下す
からめる	絡める		くみたてる	組み合わせる	
かろうじて	辛うじて		くむ	組み立てる	酒を酌む
かんがみる	鑑みる		くらい	酌む	事情を酌む
かんげき	間隙			位	位する
かんじん	肝心	△肝腎 肝心要 肝心な事柄		～くらい(ぐ らい)	位取り
かんする	関する	～に関する～	くらべる		どのくらい
かんぺき	完璧		くる	比べる	△較べる
【き】			くれぐれも	来る	人が来る
きがかり	気掛かり		くれる	～(て)くる	寒くなってくる
きぐ	危惧		くれる	くれぐれも	△呉々も
きする	期する	～を期して	くれる	くれる	△呉れる
きそん	毀損		くろうと	～(て)くれる	資料をくれる 援助してくれる
きたす	来す	支障を来す			
きたる	来る	来る○月○日			
きづき (きづ く)	気付き (気付 く)	△気づき (きづ く)			

見出し	表記	備考			
【け】			こっけい	滑稽	
げ (接尾語)	～げ	惜しげもなく △～気	こと	事	事を起こす 事に当たる
けいがいか	形骸化			～こと	許可しないこと がある
けいもう	啓もう	△啓蒙 [啓発]	ことがら	事柄	次の事柄につい て
けた	桁	3桁, 橋桁	ごと	～ごと	△毎
けっこう	結構	結構な品物 結構です	ごとく	ごとく	△如く [ように]
	けっこう	けっこう役に立 つ	ことさら	殊更	殊更～する
けんさん	研さん	△研鑽	ことなる	異なる	意見が異なる
けんそん	謙遜				～を異にする
けんばん	鍵盤		ことに	殊に	殊に優れている
【こ】			ことのほか	殊の外	
ご (接頭語)	御～	御案内	こども	子供	
	ご～	御調査のほど ごあいさつ ごべんたつ (仮名書きの場 合)	こどもたち	子供たち	
			ことわる	断る	断りの手紙
			このごに～	この期に～	この期に及んで
			このような	このような	
			ごぶさた	御無沙汰	
ごい	語彙		こむ	混む	電車が混む
こう	乞う	雨乞い		込む	読み込む
こうばい	勾配		こもる	籠もる	閉じ籠もる
ごうまん	傲慢		ころ	頃	日頃
こうむる	被る	損害を被る	こんてい	根底	
こうよう	高揚	△昂揚	コンピュータ	コンピュータ	△コンピュー ター
こえる	越える	山を越える 年を越す	【さ】		
	超える	10万円を超える 額 1000万人を越す 人口	ざせつ	挫折	
			さいはい	采配	
			さいわい	幸い	幸いだ 幸い間に合った
こかんせつ	股関節		さかのぼる	遡る	
ごく	ごく	△極 ごく新しい	さき	先	先に立つ 先取り, 先んず る
こけつ	虎穴		さきに	さきに	さきにお知らせ
こころがけ(る)	心掛け(る)		さきほど	先ほど	△先程
ごぞんじ	御存じ	△御存知 御存じですか	さげすむ	蔑む	
こたえ(名詞)	答え		ささいな	ささいな	△些細な
こたえる	答える 応える	質問に答える 要望に応える (～に応じる)	ささげる	ささげる	△捧げる
			さしあげる	差し上げる	
			さしあたり	差し当たり	

見出し	表記	備考			
さしえ	挿絵		しかた	仕方	仕方がない
さしかかる	差し掛かる		しかる	叱る	※叱責, 叱咤
さしさわり	差し障り		しくみ	仕組み	機械の仕組み
さしず	指図		しげき	刺激	
さしずめ	さしずめ	△差し詰め	しごく	至極	至極もつともである
		さしずめ計画ど	しさい	子細	△仔細
		おりに実施する			子細があつて
さしだす	差し出す	紹介状を差し出す	しじゅう	始終	始終～する
さしだしにん	差出人		しだい	次第	式次第
さしつかえる	差し支える				～する次第である
さしつかわす	差し遣わす				次第に～する
さすがに	さすがに	△流石に	したがう	従う	法律に従う
ざせつ	挫折		したがって(接	したがって	△従って
さっきゅう	早急	早急に手配する	続詞)		したがって～
さっそく	早速	早速送付する	じつに	実に	
さばく	さばく	△捌く	しばしば	しばしば	△暫く
		品物をさばく	しばらく	しばらく	手ぬぐいを絞る
	裁く	罪人を裁く	しぼる	絞る	絞り染め
さほど	さほど	さほど重要でない			乳を搾る
さまざま	様々			搾る	搾り取る
さらい～	再来～	再来週, 再来月, 再来年	しまつする	始末する	書類を始末する
さらなる(連体	更なる(連体		シミュレーション	シミュレーション	×シュミレーション
詞)	詞)		しめきり	締切り	申込みの締切り
さらに(副詞)	更に	更に検討する			締切日
さらに(接続詞)	さらに	さらに, ～	しゃりょう	車両	△車輛
さる	去る	去るに当たって	しゅうちしん	羞恥心	
		去る○日	じゅうぶん	十分	△充分
さわやか	爽やか		じょうず	上手	
さわる	障る	気に障る	じょうぶ	丈夫	丈夫な体
		差し障る	しょせん	所詮	
	触る	展示品に触る	しりぞける	退ける	△斥ける
		手触りがよい	しろうと	素人	
さんけい	参詣		しんし	真摯	
ざんしん	斬新		しんしょく	侵食	△侵触
さんろく	山麓		しんせき	親戚	
【し】			じんだい	甚大	被害甚大
しあわせ	幸せ		しんちよく	進捗	
しいて	強いて		じんもん	尋問	△訊問
しいてき	恣意的				

見出し	表記	備考			
【す】					川沿いの家
すいせん	推薦			添う	連れ添う
ずいぶん	随分	随分早く着いた	そうかい	爽快	付き添い
すえおき	据置き		ぞうきん	雑巾	
すえおく	据え置く		そうごう	総合	△総合
すき	隙	隙間	そうじて	総じて	
すぎない	すぎない	～にすぎない	そうそうに	早々に	
すぎる	過ぎる	期限が過ぎる	そうてい	装丁	
すくなくとも	少なくとも		そうとう	相当	部長に相当する
すぐに	すぐに	△直に			相当難しい
すぐれる	優れる	△勝れる	そうにゆう	挿入	
すこし	少し		そうめい	そうめい	△聡明
すすめる	進める	交渉を進める			[賢明, 賢い]
	勧める	入会を勧める	そち	措置	
	薦める	候補者として薦める	そっせん	率先	
			そば	そば	△側, △傍
ずつ	ずつ	1つずつ	そまつな	粗末な	
		少しずつ	それ	それ	それぞれ, それ
すでに	既に	既に完成している			ら, それゆえ
すなわち	すなわち	△即ち	そろう	そろう	△揃う
すばらしい	すばらしい	△素晴らしい			*品揃え
すべて	全て	△総て	ぞんずる	存ずる	それがよいと存じます
すみやかに	速やかに	速やかに実施する			御存じの～
すりあわせる	擦り合わせる		【た】		
すわる	座る	座り込む	た	他	その他
	据わる	目が据わる	たいがい	大概	大概大丈夫だろう
			たいした	大した	大したことはない
【せ】					大して参考にならない
せいとん	整頓				もう大丈夫だ
せっかく	せっかく	△折角	だいじょうぶだ	大丈夫だ	
せつに	切に	切に祈る	たいせき	堆積	
ぜひ	是非	是非を論ずる	たいせつに	大切に	
		是非お願いしま	たいそう	大層	大層明るい
		す	だいたい	大体	大体よい
せん	栓	消火栓			大体のところは
せん	腺	涙腺, 前立腺	たいてい	大抵	大抵のことは分
せんさく	詮索				かる
せんぼう	羨望		たいとう	台頭	
【そ】			だいぶ(ん)	大分	大分増えた
ソ・ソウ	曾(曾)	曾祖父	たいへん	大変	大変な人出
そう	沿う	意見に沿う	たえず	絶えず	絶えず行き来する

見出し	表記	備考	【ち】		
たがいに	互いに	互いに励まし合う	ちいさな	小さな	
たぐい	類い		ちかごろ	近頃	
たくさん	たくさん	△沢山	ちかづく	近付く	△近づく
たけ	丈	身の丈 思いの丈を述べる	ちくいち	逐一	逐一報告する
だけ	～だけ	調査しただけで ある	ちなみに	ちなみに	△因みに
たしょう	多少	多少早くなる	ちなむ	ちなむ	△因む
たずねる	尋ねる	由来を尋ねる 尋ね人	ちみつ	緻密	
	訪ねる	知人を訪ねる 史跡を訪ねる	ちょうだい	頂戴	
			ちょうど	ちょうど	△丁度
			ちよっと	ちよっと	△一寸
			ちんでん	沈殿	△沈澱
			【つ】		
ただ	ただ	△唯, 只	ついたち	一日	※月の始めの日
ただし(接続詞)	ただし	△但し		*12月1日	という慣用句的 扱い
ただちに	直ちに				
たち(接尾語)	～たち	△達 子供たち, 私たち ※友達…熟語と して漢字	ついで	次いで	ついでに仕事も 頼む
			ついでに	ついでに	△就いては
					ついては, ~
たちのく	立ち退く	立ち退き	ついては(接続 詞)	ついては	△遂に
たちまち	たちまち	△忽ち	ついに	ついに	ついに完成する
たつ	断つ	退路を断つ			機械を使う
	絶つ	縁を絶つ	つかう	使う	重油を使う
		消息を絶つ			心を遣う
	裁つ	生地を裁つ		遣う	小遣い銭
たて	盾	△楯			仮名遣い
たとえば	例えば		つかわす	遣わす	差し遣わす
たのもし	頼もしい		つき	～付き	折り紙付き
たび	度	度重なる 度々			尾頭付き
	～たび	このたび ～するたび		つき	顔つき, 目つき 体つき
たぶん	多分	多分～であろう	つぎ	次	次のとおり
たまわる	賜る				次々と
ため	ため	△為 ために ～のため	つく	付く	△附く
					利息が付く
だめ	駄目	駄目を押す			味方に付く
ためす	試す	切れ味を試す			手紙が着く
だれ	誰			着く	船を岸に着ける

見出し	表記	備考	【て】		
	就く	職に就く	てあて	手当	手当を支給する
つぐ	次ぐ	役に就ける 事件が相次ぐ	ていしょく	手当て	傷の手当て
	継ぐ	取り次ぐ	ていねい	抵触	
	接ぐ	跡を継ぐ	ておくれ	丁寧	
	接ぐ	引き継ぐ	ておくれ	手遅れ	
	接ぐ	木を接ぐ	てがかり	手掛かり	
	接ぐ	接ぎ木	でかける	出掛ける	
つくる	作る	おもちゃを作る	でき	出来	出来心, 出来事
	造る	船を造る			出来上がる
	創る	新しい文化を創			出来上がり
	創る	り出す			出来が良い
	つくり	*課題づくり	～でき	～出来	上出来, 不出来
	つくり	*授業づくり	デキ	*溺	*溺愛
づけ	～付け	*授業づくり	できる	できる	△出来る
	～付け	○月○日付け			利用できる
	～付け	日付			できるだけ～
つける	付ける	条件を付ける	てぎわ	手際	手際が良い
	付ける	付け替える	てごろ	手頃	手頃な大きさ
	付ける	関連付ける	てだて	手立て	△手だて
つごう	都合	都合で	てはず	手はず	△手筈
	都合	都合○名			手はずを整える
つたない	拙い		てびき	手引き	指導の手引き,
つつしむ	慎む	身を慎む			手引書, 手引き
つづる	つづる	△綴る			をする
	つづる	文をつづる	てもと	手元	△手許
	つづる	書類をつづり込	【と】		
	つづる	む	といあわせ	問合せ	問合せをする
*ぶんしょつ	*文書綴り		といあわせる	問い合わせる	
づり			～とう	～等	「など」と読ませ
つど	都度	その都度			たいときは仮名
つとめて	努めて	努めて早起きする	とうがい	当該	
つとめる	努める	解決に努める	どうくつ	洞窟	
	勤める	会社に勤める	どうし	同士	児童同士
	務める	議長を務める	どうじょう	同上	
	務める	主役を務める	とうてい	到底	到底できない
つながる	つながる	△繋る	とうとう	とうとう	とうとう決定した
つねに	常に		とおり	通り	銀座通り, 一通り
つまずき	つまずき			～を通して	
つもり	積もり	心積もり		～とおり	次のとおりである
	積もり	※見積り			従来どおり
	つもり	そのつもりだ	とかく	とかく	△兎角
	つもり				とにかく

見出し	表記	備考			
とき	時 ～とき	とにもかくにも 時の記念日 事故のときは連絡する ～したとき		～とも	共に (副詞) 共々 (副詞) ～とともに ～するとともに 今後とも 家庭や地域とも △共
とく	解く  溶く	問題を解く 疑いが解ける 会長の任を解かれる 絵の具を溶く 地域社会に溶け込む	ともだち ども (接尾語) ともなう とらえる  とりあえず	友達 ども 伴う 捕らえる 捉える 取りあえず	私ども ～に伴って 泥棒を捕らえる 機会を捉える △取り敢えず 取りあえず御報告まで
とくに どこ ところ	特に どこ 所 ～ところ	△何処 △処 現在のところ差支えない	とりあげる とりいれる とりかかる とりくみかた とりくむ とりはからう とりまとめ とりもどす とりやめ とりわけ とりわけ	取り上げる 取り入れる 取り掛かる 取り組み方 取り組む 取り計らう 取りまとめ 取り戻す 取りやめ とりわけ 取り分ける	仕事に取り掛かる
ところが (接続詞) ところで (接続詞) とじる	ところが ところで とじる	△綴じる 紙をとじる 門を閉じる	とりわけ とりわけ	取り戻す 取りやめ とりわけ	△取り止め
とつぜん ととのえる	突然 整える	身边を整える 調子を整える 晴れ着を調える 費用を調える	とりわけ とりわけ	取り分ける	
とどめる	とどめる	△止める, △留める 記録にとどめる	とる	とる	バランスをとる 形態をとる 食事をとる (する) 感じ取る アンケートを取る メモを取る 連絡を取る コミュニケーションを取る
とほいうものの とほいえ とめる	とほいうものの とほいえ 止める 留める	息を止める ボタンを留める 留め置く, 書留		撮る 採る 執る	栄養を摂る 会議で決を採る 事務を執る 式を執り行う
とも	共	教師と児童が共に		捕る 撮る	生け捕る 写真を撮る

見出し	表記	備考	なる	成る	△為る
【な】					
ない	ない	△無い 欠点がない 行かない 有り・無し		なる	本表と付表とから成る 1万円になる 小さくなる
	亡い	亡くなる 亡き人	なるべく なるほど	なるべく なるほど	なるべく早くする △成程
ないし	ないし	△乃至 北ないし北東の風	【に】 におう におう にぎわう にくい	匂う 臭う にぎわう 憎い	梅の花が匂う 生ゴミが臭う △賑わう △～憎い, ~難しい 言いにくい
なお	なお	△尚, 猶 なお, ~ なおさら	になう	担う	△荷う 双肩に担う
なか	中	箱の中, 括弧の中	にらむ	にらむ	△睨む
ながい	長い	長い道, 気が長い	にわか	にわか	にらみ合わせる △俄
	永い	末永く契る			にわかには事が運ぶ
なかなか	なかなか	なかなか現れない	【ぬ】 ぬぐう	拭う	
なかば	半ば	半ば諦める	【ね】 ねりなおす ねらい	練り直す 狙い	*授業や指導においては「ねらい」と仮名表記
ながら	ながら	△乍ら 歩きながら話す	【の】 のうり のがす のける のちほど のっとる		
なごり	名残				
なさけ	情け	情けない		脳裏	△脳裡
なざし	名指し			逃す	逃れる
なされる	なされる	△成される		のける	△除ける
なじむ	なじむ	△馴染む		後ほど	後ほど連絡する
なす	なす	△為す なすすべもない		のっとる	△則る 〔基づく, 従う, よる, 即する〕
なぜ	なぜ	△何故			
～など	～など	△等は「とう」と読む			
ななめ	斜め		のばす	伸ばす	勢力を伸ばす
なにとぞ	何とぞ	△何卒			学力が伸びる
なにぶん	何分	何分よろしく		延ばす	開会を延ばす
なみなみ	並々	並々ならぬ			支払いが延び延びになる
ならう	倣う	前例に倣う			
ならびに (接続詞)	並びに	(a 及び b) 並びに (c 及び d)	のべる	延べる	布団を延べる
なりたつ	成り立つ			伸べる	救いの手を差し伸べる
なりゆき	成り行き		のむ	飲む	△呑む

見出し	表記	備考			
【は】			はたして	果たして	果たして～だ
はあく	把握		はつらつ	はつらつ	△撥刺
はいぜん	配膳		はで	派手	
はいる	入る		はなしあう(動詞)	話し合う	話し合った
はえる	栄える	見栄え, 出来栄え	はなはだ	甚だ	甚だ大きい 甚だしい
はがき	はがき	△葉書	はば	幅	△巾
はがす	剥がす	剥ぐ	はばかり	はばかり	△憚る
はかどる	はかどる	△捗る	はばむ	阻む	
はからずも	図らずも		はやい	早い	時期が早い
ばかり	～ばかり	こればかり ～するばかり		速い	矢継ぎ早 流れが速い
はかる	図る	合理化を図る	はらいもどし	払戻し	テンポが速い 払戻金, 払戻証書
	計る	解決を図る 時間を計る 計り知れない恩恵	はらいもどす	払い戻す	
	測る	距離を測る 面積を測る	はる	張る	リンクを張る
	量る	目方を量る 容積を量る	はれる	貼る	シールを貼る
	謀る	暗殺を謀る	はんてん	腫れる	※腫らす
	諮る	審議会に諮る	はんようせい	斑点	
はぐくむ	育む	育んだ, 育み	はんれい	汎用性	
ばくぜん	漠然	漠然とした	【ひ】	凡例	
ばくだい	ばくだい	△莫大, [多大]	ひいては	ひいては	△延いては
はさむ	挟む	挟み込む	ひきおこす	引き起こす	△惹き起こす
はじめ	はじめ	各学年のはじめ 教職員をはじめ ～をはじめとして	ひごと	日ごと	△日毎
	始め	始め-中-終わり	ひごろ	*日頃	
はじめて	初めて	初めての経験	ひづけ	日付	
はじめ(る)	始める	思考し始める 始めから終わりまで	ひとかたならぬ	一方ならぬ	
			ひとしお	ひとしお	△一入
			ひとしく	ひとしく	△斉しく 全員ひとしく賛成した
はず	はず	△筈 できるはずがない	ひとそろい	一そろい	△一揃
			ひとたび	一たび	△一度
はずれる	外れる	町外れ, 外す 踏み外す	ひととおり	一通り	
			ひとまず	ひとまず	△一先ず
			ひとり	一人	一人っ子 一人一人
				独り	△一人ひとり 独り占め

見出し	表記	備考			
ひとわり	ひとわり	△一渡り		奮う	勇気を奮う
ひゆ	比喻		ふるって	奮って	奮い立つ
ひよく	肥沃				奮って参加ください
ひょうき	表記	表記の金額	ふれあう	触れ合う	
		国語の表記	ふれる	触れる	
	標記	標記のことについて	ふんいき	雰囲気	
ひらく	開く	窓を開く, 未来を開く, △拓く	【へ】	閉塞	
ひろがる	広がる	△広がる	へいそく	ページ	△頁 (論文中は使用することもある)
びんせん	便箋		ページ		
ひんばん	頻繁		べき	べき	△可き
【ふ】					そうすべきである
ふ	附	附則, 附属, 附帯	へきち	へき地	△僻地, [辺地]
		附置, 寄附	へた	下手	
	付	付記, 付随, 付与	べんたつ	べんたつ	△鞭撻
		付録, 交付, 給付	【ほ】		
ふう	風	洋風, 学者風の人	ほう	方	先方, 方針, 諸方
	～ふう	こういうふうに造る	ぼうだい	膨大	君の方
		知らないふうを装う	ほうる	放る	△厖大, [多大]
ふえる	殖える	財産が殖える	ほか	ほか	原則ひらがなで
	増える	人数が増える			ほかの意見, ほかから探す
ふく	拭く			他 (た)	
ふさぐ	塞ぐ	塞がる		外	思いの外
ふさわしい	ふさわしい	△相応しい	ほしい	欲しい	*殊の外
ふじゅうぶん	不十分	△不充分			金が欲しい
ふせん	付箋			～してほしい	欲しがる
ふたたび	再び		ほそく	補足	見てほしい
ふだん	ふだん	△普段		捕捉	人工衛星を捕捉する
		ふだん考えていること	ほど	程	程遠い, 程なく
ふっしょく	払拭	拭く, 拭う			身の程
ふまえ	踏まえ	～を踏まえて		ほど	先ほど, 後ほど
ふりがな	振り仮名		ほとんど	ほとんど	今朝ほど
ふるう	振るう	腕を振るう	ほにゅうるい	哺乳類	少ないほど良い
		事業が振るわない	ほぼ	ほぼ	△殆ど
	震う	声を震わせる			△略
		身震い			

見出し	表記	備考	【み】		
ほまれ	誉れ		み (接頭語)	み～	△御～, み霊, み代
ほめる	褒める	△誉める			
ほんとう	本当	本当の話, 本当に	み (接尾語)	～み	△～味 弱み, 有り難み △見出す
<b>【ま】</b>					
まいしん		△邁進	みいだす	見いだす	
まぎわ	間際	出発間際	みきわめる	見極める	
まことに	誠に	誠に重要な問題である	みごと	見事	△美事
		△真に, △実に	みずから	自ら	自ら名乗り出る
まさに	正に	正に指摘のとおりである	みぞう	未曾有	
		△将に, △方に	みたす	満たす	△充たす
まさる	勝る	△優る	みだりに	みだりに	△妄に, △濫に
まして	まして	△況して	みち	道	△路, 径, 途
まじめ	真面目	*「まじめ」も可	みっか	三日	
まじる	交じる	漢字仮名交じり文	みつける	見付ける	
		△先ず	みとる	見取る	
まず	まず	△益々	みなす	みなす	△見なす, 見做す
ますます	ますます	ますます増加する	みにくい	見にくい	△見難い
		又の機会, 又聞き	みにつける	身に付ける	△身につける
また	又	また, ～	みのがす	見逃す	
また (接続詞)	また	a 又は b	みる	見る	△観る, 看る, 視る, 覧る 遠くの景色を見る 面倒を見る 患者を診る, 脈を診る
または (接続詞)	又は				
まちがい	間違い				
まちがう	間違う				
まっさき	真っ先	真っ赤, 真っ青	<b>【む】</b>		
まったく	全く		むしろ	むしろ	むしろこの方が便利だ △寧ろ
まっとうする	全うする	△完うする			
まで	まで	△迄 ○日まで	むずかしい	難しい	
まね	まね	△真似	むぞうさ	無造作	無造作に描く
まもなく	間もなく		むだ	無駄	無駄話
まれ	まれ	△希, 稀	むとんちやく	無頓着	
		世にもまれな話	むなしい	むなしい	△空しい, 虚しい
まわり	回り	△廻り	むね	旨	その旨, 了承されたい
		身の回り, 胴回り, 回る, 回す			
	周り	池の周り	むやみ	むやみ	△無闇, 無暗 むやみに言い触らす
		周りの人			
まんなか	真ん中		むろん	無論	無論正しい

見出し	表記	備考	もっばら	専ら	専ら仕事に力を入れる
<b>【め】</b>					
めあて	めあて 目当て	*授業や指導においては「めあて」と仮名表記 銘々に分ける	もと	下	法の下に平等 ～という理念の下
めいめい	銘々			元	火の元, 出版元
めいりょう	明瞭			本	本を正す
めがね	眼鏡			基	資料を基にする
めぐる	巡る めぐる	寺を巡る 課題をめぐって	もの	～もの	基づく 正しいものと認める
めざす	目指す	△めざす			～を示すもの
めざましい	目覚ましい				物を大切に扱う
めった	めった	△滅多 めったやたらに		物(物体として存在する物)	
めでたい	めでたい	△目出度い		者(人間)	18歳未満の者
めど	めど	△目処	もより	最寄り	最寄りの駅
めやす	目安		もらう	もらう	△貰う
めんどろ	面倒	御面倒をお掛けします			～してもらう
			もらす	漏らす	本音を漏らす
<b>【も】</b>			もろもろ	もろもろ	△諸々
もうしあげる	申し上げる		<b>【や】</b>		
もうしあわせ	申し合せ	申し合わせる	やかましい	やかましい	△喧しい
もうしこむ	申し込む		やくわり	役割	
もうしこみ	申込み	申込書	やさしい	易しい	易しい問題
もうしわけ	申し訳			優しい	優しい心遣い
もうら	網羅		やすい	安い	
もくと	目途	年末完成を目途とする		～やすい	△易い 読みやすい
もくろみ	もくろみ	△目論見	やっかい	厄介	
もし	もし	△若し	やむをえず	やむを得ず	
もくしは(接続詞)	若しくは	a 若しくは b	やわらかい	柔らかい	柔らかな毛布 物柔らかな態度
もたらす	もたらす			軟らかい	表情が軟らかい
もちろん	もちろん	△勿論			軟らかな土
もつ	持つ	荷物(物体)を持つ	やわらぐ	和らぐ	気持ちが和らぐ
	もつ	責任(物体以外)をもつ	<b>【ゆ】</b>		
	もつ	責任(物体以外)をもつ	ゆいしょ	由緒	
	もつ	責任(物体以外)をもつ	ゆうゆう	悠々	悠々自適
もって	もって	△以って ～をもって	ゆえ	故	故あって, 故なく
				～ゆえ	一部の反対ゆえ
もつとも	最も もつとも	最も大切 もつともな御意見です			にはかどらない それゆえ
			ゆえに(接続詞)	ゆえに	ゆえに, ~
			ゆがむ	ゆがむ	△故に △歪む

見出し	表記	備考
ゆくえ	行方	行方不明
ゆだねる	委ねる	
ゆるむ	緩む	緩やかだ
【よ】		
よい	良い	
	よい	よい点, よりよい, 都合のよい, よいこと, よい機会 (指導要領の表現)
	～(て) よい (許可)	連絡してよい
	善い	善い行い
よけい	余計	費用が余計に掛かる
よごれる	汚れる	
よほど	よほど	△余程
よりどころ	よりどころ	△拠所
よる	よる	△依る, 因る これによってよい
よろしく	よろしく	△宜しく
【ら】		
ら	～ら	△～等 これら, 我ら
【り】		
りっぱ	立派	
【る】		
るす	留守	
【れ】		
れんが	れんが	△煉瓦
【わ】		
わが	我が	我が国, 我が家
わかる	分かる	△解る, 判る 気持ちが分かる
わけ	訳	訳がある, 申し訳ない
わずか	僅か	
わずらう	煩う	思い煩う 人手を煩わす

わたくし	患う 私	胸を患う 私事
わたし	私	
わたる	渡る わたる	橋を渡る 2行にわたる 細部にわたる
わびる	わびる	△詫びる
わりあい	割合	
わりに	割に	
われ	我	我々, 我ら

☆ 複合の名詞の場合, 送り仮名を付けずに書くことができる。

受入れ	受渡し	打合せ	置場
買物	書換え	貸出し	期限付
組合せ	組替え	組立て	条件付
立会い	問合せ	取扱い	取決め
取消し	話合い	引継ぎ	見合せ
見積り	申合せ	申入れ	申込み
申立て	申出	持込み	呼出し
受付	奥付	貸出	箇条書
出入口	手続	手引	手引書
取組	日付	見取図	申込書
物語	役割		など

※ 同一論文中では, 表記を統一する。

参考: 送り仮名の付け方について

「法令における漢字使用等について」

(平成 22 年 11 月 30 日付け内閣法制局長官決定)

【付録】 公用文における漢字使用等について（文化審議会国語分科会作成）から抜粋

1 次のような代名詞は原則として漢字で書く。

＜例＞ 俺, 彼, 誰, 何, 僕, 私, 我々

2 次のような副詞及び連体詞は, 原則として漢字で書く。

＜例＞ 副詞

余り, 至って, 大いに, 恐らく, 概して, 必ず, 必ずしも, 辛うじて, 極めて, 殊に, 更に, 実に, 少なくとも, 少し, 既に, 全て, 切に, 大して, 絶えず, 互いに, 直ちに, 例えば, 次いで, 努めて, 常に, 特に, 突然, 初めて, 果たして, 甚だ, 再び, 全く, 無論, 最も, 専ら, 僅か, 割に

＜例＞ 連体詞

明るく, 大きな, 来る, 去る, 小さな, 我が(国)

ただし, 次のような副詞は原則として仮名で書く。 <例> かなり, ふと, やはり, よほど

3 次の接頭語は, その接頭語が付く語を漢字で書く場合は, 原則として, 漢字で書き, その接頭語が付く語を仮名で書く場合は, 原則として, 仮名で書く。

＜例＞

御案内(御+案内), 御挨拶(御+挨拶), ごもつとも(ご+もつとも)

4 次のような接尾語は, 原則として仮名で書く。

＜例＞

げ(惜しげもなく), ども(私ども), ぶる(偉ぶる), み(弱み), め(少なめ)

5 次のような接続詞は, 原則として, 仮名で書く。

＜例＞

おって, かつ, したがって, ただし, ついては, ところが, ところで, また, ゆえに

ただし, 次の4語は, 原則として漢字で書く。

及び, 並びに, 又は, 若しくは